
とあるバカな風紀委員

邪氣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるバカな風紀委員

【Zコード】

N97020

【作者名】

邪氣

【あらすじ】

はじめまして邪氣と申します。

今回が処女作ですがよろしくおねがいします。

主人公＝波原龍牙なみはらりょううがいろんな奴（？）に巻き込まれる・・・
ちなみにヒロインは未定です・・・

始まり・・・

始まり

「んあ～もうこんな時間かよ～」

とかいってるのは俺、
波原龍牙だ・・・・一応佐天と同じ学校に行
つている。

「ちくしょ～ねみい～」

「今何時だあ？」

ただいま午前8時

「・・・・・やべ・・・遅刻だ・・・

俺は、わずか5分で支度しダッシュで学校へ向かつた。

「やべーーーー間に合わねええええーーー

急いでた俺は誰かとぶつかってこけた。

「「いつてええええ」」

「んつあんた大丈夫か」と俺が言うと

「ああなんとか大丈夫だ・・・つてああああこんな時間だあああー」

「うとシンシン頭は走り去つていつた。

なんたあし――・・・・――て遅刻する――

学校へついた俺は、先生の説教をくらうとケレスへ行こうた。

キリスト教の歴史

風紀委員の支詔行く途中は佐天と初春が来た

珍しいしゃん龍が退刻たんて

「そうです。なにかあつたんですか？」

「聞いてくれよ、家を急いで出てギリギリ間に合ひついでいるところ
でツンツン頭の人とぶつかったんだ」

「あはは、それは残念だつたね龍牙」

「笑っちゃ失礼ですよ、佐天さん」

「あはは、だつておもしろいんだもん」

「笑ひんじゃねええええええええ」

「あはは、「めん」「めん」

「つたくよ今日まついてねーなあ——」

ガチャツ

ドアを開けた瞬間に靴底が顔に近づいてきた。

バコンッ

とこう音と同時に俺は地面に倒れた

「「^{わん}大丈夫龍牙」」

「こつてえええな」しゃがんだ黒子おおおおお

「あなたが悪いんですの、三田も仕事サボりますから大変だったのですわよ」

「「うるせええたまには休みたいんだあああ」

「「毎日休んでるでしょ」」

「そんなに怒るなよ。またパフHおうひしてやるから」

「ほんとうですの」

「ああ、一人つきりでな」

ボンッとこゝの爆発音が聞こえた。

「んつぢづじた黒子顔赤いぞ」

「なつな、なんでもあつませんの」

（ふつふたりつきりでですの、つてこゝかなんでわたくしデキデキ
していますの別に彼のことは嫌いではありませんが・・・・）

「ああ仕事するか～～～」

「いいなあ～白井さん龍牙とトークできて、ねえ初春」

「ひやいなんでわたしが龍牙さんとトークしなくちゃいけないんで
すか」

「でもしたいんでしょ～～～」

「やつやあしたいですけど・・・・・」

この日、支部は凄い状態になつた、顔を赤くしてぶつぶつ黒子、
初春と佐天も顔を赤くしている。

「はあ～今日はついてねえ～～～～～～～～～～～～

始まり・・・（後書き）

読んでいた頂きありがとうございました。
感想などよろしくおねがいします。

ヒロイン募集中——

「ひじりうなつた…………

…………今おこしてこる事を話そつ…………

俺の前のテーブルには黒子、隣には佐天、佐天の前には初春、…………
…………何で？

確かに昨日パフュおじるとか言つたけど、黒子だけじゃなかつたっ
け？

などと言つてゐるど・・・・・・

「龍牙、 いらないなりもひづよ

ヒヨイシ パク

「あ――――なにしてんだ佐天、 それ俺のパフュえええええ」

「油断してるのがわるいんだよ――――」

「せつせつ佐天さん――なんでこんな殿方と間接キスなんかおお
おおおおお

「おおおおお

「ふえ／＼・・・・・・・・・・ボン・・・キュー——」

変な音を立てて倒れる佐天しかも顔が赤い・・・・・・

「おい、大丈夫か・・・・熱は無いみたいだな・・・・何でだ?・・・・

・」

黒子を見ると(いいなあ・・・・・)などと言つてゐる。

初春を見ると(いいなあ・・・・・)などと言つてゐる。

「二人共どうしたよ・・・・・」

「「なんでもあつません(なこどり)」」

?

まあいいや・・・・・・・・

「やばいな・・・・・」

「え?したんですね?・・・・・?」

「今月の食費が

「せっ本当に黒子のおおおおお。いやーいいダチだわー。嫁したいわ」

「おこ…………お前もかあ…………くそなんなんだ・・・

「體がれきのせにだら懶いんですか」と・・・・・・

「え？ ・・・？」

「はあ――もういいです! (鈍感なんですから・・・・)」

果たして四人のデート? はどうなるのか 次回へ

お手柄になつた……（後書き）

感想よろしくお願ひします。

トート？・・・・・かな（前書き）

感想よろしくお願いします。

テート？・・・・・・・・・かな

育旨

——あれから俺たちは、「セブンミスト」という所に来ている。

「なあーなんで俺がここに入らなきゃいけないの?」

何故かおれは、女性専用服に入れられようとしている。

当然、俺は拒んでいるが……………あいつらが

「「「入って（へだれこ）（へだれこませ）」」」

などと書く。

理由を聞くと、小遣ジギー派、派手派(みんな)・・・・

「はあ～分かつたよ。入ればいいんだろ～～～」

「本当（ですか）？」

中へ入るが、ワンピースやウエーブスカートなど・・・いろいろある。

「龍牙ちゃん、いんなのどうですか？／＼／＼／＼／＼

初春の方を見ると、水玉模様のワンピースを持っていた。

「んー俺的には、結構似合つてこむと感つよ」

「ウル」

「えへへ～～～／＼＼それじゃ～買つてきますね／＼＼」

やつぱつ、いつも時間が一番幸せだわ――。風紀委員の仕事

より一万倍幸せだああ。

・・んなわけねえか、なんたって黒子もいるしな・・・・・・
・・・・・などと考えていると

「龍牙―――、」れ似合ひへ.」

「んつどれどれ・・・・・うーーん俺は、こっちの赤のチェックの
スカートが似合ひ思ひ

「ホントに―――」

「本当だ」

「んじや、買つてくきまへ―す

「お~い佐天・・・・・・

「ん~な~へ~に・・・・・・

「俺が選んだやつでいいのか?」

「ウニ、ウニ、ウニ、ウニ、ウニ、ウニ」

「ふーんならしいや・・・・でもよく似合つよそのスカートとそ
の服！」

シンシン・・・・・シンシン・・・・・

「んつなんだ黒子じやねえか、どいつした。」

「いや、それが～」

「何だよ」

11

「服?、何だそんなことかよ」

「せーせー、すこません。……。うるんなんぢやだー。」

つと俺が見せたのは、メイド服+猫耳セリット…………（何であるのか知らない）

「あ、あなたは」なんが好きですか？」

いや、俺の理想は、朝起きたらメイド服を着ている女の子が

「朝です、起きてください」

などと照れながら起^ハされたるのが夢だ。

「というわけで黒子、メイド服着てくれない／＼／＼

「なつなんでわつわたくしですの// // // // // //」

「だつて似合いそうだし・・・・・・・・・

「嫌ならいいよ、黒子」

「わつ分かりました、買つてきます／＼＼＼＼」

「黒子のバスケ」

ほんの冗談でいつたのに、ガチでいきやがった。

かくして皆の買い物は終わった・・・・・・・・・・・

L

ポート？・・・・・かな（後書き）

感想よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9702o/>

とあるバカな風紀委員

2010年11月22日20時44分発行